

R 6 年 2 月 放 送 分
「令和 6 年度防衛予算について」
(日本の防衛 Q & A)
(自衛隊百科)

R6. 1. 24 収 録

【パーソナリティー】

本日は東北防衛局の中野^{なかのひろふみ}裕文局長からお話を伺います。

中野局長、よろしくお願いします。

【局長】

よろしくお願いします。

今日は、「令和 6 年度防衛予算について」というテーマでお話をしたいと思います。

1 月 1 6 日に閣議決定された令和 6 年度予算案は、国全体では約 1 1 3 兆円ですが、防衛関係費は全体の約 7 % にあたる 7 兆 9 千 5 百億円となっています。

【パーソナリティー】

日本の防衛関係費の内訳は、どのようなになっているのでしょうか？

【局長】

はい、防衛関係費の内訳は、隊員の給与や食費などの人件・糧食費が全体の約 3 割で、隊員の教育訓練や技術研究開発、基地の周辺対策などの経費が約 2 割です。そして、残りの約 5 割が装備品の購入など昨年度までに契約したものの後年度負担の支払いのための経費という配分になっています。

【パーソナリティー】

予算の約半分が、昨年度までに契約したものの支払いなんですね。

【局長】

はい、防衛装備品は、発注してから納入されるまで複数年掛かるものがほとんどであり、昨年度までに締結した契約にかかる支払いのた

めの経費が予算の大部分をしめています。

【パーソナリティー】

令和6年度防衛予算の注目すべき点は何ですか？

【局長】

はい、令和6年度予算のポイントは、令和4年12月に閣議決定された「国家防衛戦略」と「防衛力整備計画」に基づき、防衛力の抜本的強化の実現に向けて「ミサイル防衛能力の強化」や「燃料・弾薬の確保」、「主要な防衛施設の強靱化」など7つの重視分野を設けています。

また、人的基盤の強化や衛生機能の強化、防衛生産・技術基盤の維持・強化のための予算も計上しています。

【パーソナリティー】

防衛力の抜本的強化の取り組みについてもう少し詳しく教えていただけますか？

【局長】

はい、国家防衛戦略などに示された基本方針などから導き出された、わが国の防衛上必要な機能や能力は、次の7つの分野になります。

1つ目は、統合防空ミサイル防衛能力です。

これは、極めて高速で飛んできたり、低い高度で変則的な軌道で飛んでくるミサイルなど、多様化・複雑化する空からの脅威に対応できる迎撃能力を強化するものです。

2つ目は、スタンド・オフ防衛能力です。

これは、諸外国のミサイルやレーダーの性能向上に対抗するため、相手から攻撃されることのない安全な距離を確保したところから相手部隊に対処する能力を強化することです。

3つ目は、無人アセット防衛能力です。

これは、無人偵察機など無人装備による情報収集や戦闘支援などの能力を強化するものです。

4つ目は、領域横断作戦能力です。

これは、宇宙領域における衛星の活用によるミサイルなどの情報収集能力の強化や、巧妙化するサイバー攻撃に対応する態勢の強化、電

磁波の領域における装備品の能力強化といったことを通じて、陸・海・空の領域だけではなく宇宙・サイバー・電磁波といった領域においても能力を発揮できるようにするというものです。

5つ目は、指揮統制・情報関連機能です。

これは、活発化する各国の軍事動向について、常時継続的な情報収集や、ロシアによるウクライナ侵略で見られたような情報戦に対応できる情報機能を強化するものです。

6つ目は、機動展開能力・国民保護です。

これは、離島などへの部隊の迅速な展開のために海上・航空輸送力を強化し、これらの能力を活用して国民保護を実施するというものです。

最後の7つ目は、持続性・強靱性です。

これは、有事におけるわが国への侵攻を阻止するために、弾薬や燃料などの不足を解消し必要十分な量を確保するとともに、部品不足などによって航空機を飛ばすことができないなどの装備品を運用できない状況を解消するため部品等の十分な在庫の確保を行うものです。

また、今後、おおむね10年後までに防衛施設の更なる強靱化を図ることにしています。

【パーソナリティー】

なるほど。よく分かりました。

ところで、基地周辺対策の経費はどのようなになっていますか？

【局長】

はい、基地周辺対策経費については、防衛力の抜本的強化を進め、自衛隊及び米軍の活動が拡大・多様化する中においても、防衛施設と周辺地域との調和を図り、一層の地元の理解と協力が得られるよう、令和6年度の予算については、1千743億円で過去最高額を計上しています。

まず、住宅防音事業についてですが、申請してから実際に工事を受けられるまで順番を待っているのが現状です。こうした待機世帯の早期解消を図るために、対前年度9.5%増の699億円を計上しております。

また、周辺環境整備事業については、地元からの御要望を踏まえ、公共用施設をはじめとする生活環境施設などの整備に対する補助や、

特定防衛施設周辺整備調整交付金の増額をしております。これらの事業を行うための経費として、対前年度4.7%増の1千044億円を計上しております。

【パーソナリティー】

なるほど。自衛隊の装備品の強化や防衛施設の強靱化だけでなく、周辺対策経費の拡充もやはり必要ということなんですね。

周辺対策事業について、もう少し詳しくお聞きしたいんですが、具体的な事業は教えてもらうことは出来ますか？

【局長】

はい、令和6年度では様々な周辺対策事業を計画していますが、宮城県東松島市の統合事業を一つ紹介させていただきます。

統合事業とは、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づいて実施する障害防止工事の助成や民生安定施設の助成の措置のうち、地方公共団体が特定地域において裁量的かつ計画的に複数の事業を一括で行う事業のことをいいます。

令和6年度の事業としては、体育館の整備と^{おおしお}大塩地区学習等共用施設の改修工事、屋外運動場の改修工事、それと道路工事を同時に行う計画で統合事業全体としては令和9年度までに完了の予定です。このように統合事業は複数の事業を一括で行うことで、各事業が早期に完了できるほか、繁雑な事務も解消されるメリットがあります。

【パーソナリティー】

具体的な事業を紹介していただき、大変よく理解できました。

本日は、令和6年度防衛予算について、東北防衛局の中野局長にお話をお伺いしました。ありがとうございました。

【局長】

はい、ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆様からご意見・ご感想を募集しております。

お聴きのコミュニティ放送局までご連絡ください。